

「第49回由源全国書道展（学生部展）」に出品

令和8年6月25日（木）～6月28日（日）、大阪市立美術館にて第49回由源全国書道展（学生部展）が開催されました。

今年度も、私どもの生徒（小学1年～高校生）が参加し、審査の結果次の成績をいただきました。

- ①特別賞（文部科学大臣賞、顧問賞、大賞、富田市長賞、池田市長賞、
大阪市教育局教育長賞、東大阪市教育局賞、富田林市教育局賞、
枚方市議会議長賞、八尾市議会議長賞、審査委員賞3点、推薦5点、）18点
②特選 14点 ③金賞 36点 ④銀賞 89点 ⑤銅賞 90点
⑥褒状 43点 でした。

今回、11回目の参加となる全国展におきまして、昨年に引き続き、私どもの教室から栄えある文部科学大臣賞（全国一位賞）を受賞いたしました。大変誇らしく喜ばしい限りです。今回の総出品数は約3,000点。その内、特別賞受賞数は、全出品数の約5%という狭き門でした。

大阪市立美術館の壮大な展示空間に並んだ作品は、どの作品も日々の努力が感じられる素晴らしいものでした。広い会場では、お子様やご家族の皆様が、多くの作品の中から自身の作品を熱心に探されていました。見つけた作品の前でスマホに向かい、笑顔で写真を撮る姿を目にすると、指導者としてこの上ない喜びを感じました。

授賞式では、厳かな雰囲気の中、順に氏名が呼ばれ、トロフィーと賞状が授与されます。お辞儀をし、緊張した面持ちで受け取るお子さまの姿を見ていると、普段とは違う凛とした表情がとても誇らしく、胸が熱くなりました。会場におられた保護者や祖父母の皆様も、お子さまの成長を目の当たりにされ、喜びもひとしおだったことと思います。会場全体が温かな拍手に包まれていました。

昨今、デジタル化が進む環境の中で、お子さまが「文字を書くこと」から離れていくのではないかと懸念するようなことが増えてきました。お手本を見ながら、文字の大きさ、線の長さや方向、はらい・とめなど、文字を書く際には多くのことに気づき、考え、集中しながら取り組みます。

日本の伝統文化を大切にしつつ、今後も「手書き文字」は脳の活性化やお子さまの健やかな成長につながるものと信じ、私たち指導者一同も引き続き真摯に取り組んでまいります。

みなさん、おめでとうございます。次回は記念すべき50回展です。共に頑張りましょう。

<展覧会場・授賞式会場 風景>

